

【Vol.13】トライアドだけでコード進行に対応してみる

どうも、大沼です。

早いもので、この講座が始まってから、ある程度の期間が経ちましたね。

講座の数字自体はまだ vol.13 ですが、公開したテキスト全体では、もう 17 回を超えています。

今までやったことをまとめると、

- ・メジャーペンタの 5 ポジションを覚える
- ・マイナーペンタの 5 ポジションを覚える
- ・スケール(とコード)のトニック(root)、3rd、5th の位置を覚える(メジャーとマイナー)
- ・トニックとルート音の意味の違いを覚える
- ・メジャートライアドのフォーム(1 つの基本形と 2 つの展開形)を覚える
- ・マイナートライアドのフォーム(1 つの基本形と 2 つの展開形)を覚える
- ・実戦譜例をいくつか

と、まあ、結構な量をこなしています。

最初のテキストから「全部やっているよ」と言う人は、この講座を始める前とは、見える世界が変わって来ているのではないかと思います。

この講座の主旨は、

『ギタリストと言う名の音楽家としての成長』

でしたね。

でも、実はもうすでに、上に書いた、今までやってきたことを覚えているあなたは、特に知識面では、日本でギターを弾いている全人口の、かなりの上位にいます。

これは大げさに言っているワケではなくて、マジです。

楽器店で試奏をしている人だったり、スタジオでギターを弾いてる人だったり、
適当にライブを見に行ったり、youtube の演奏動画を見たりして、
よく観察すればわかると思います。

ペンの 5 ポジションすら覚えていない人がほとんどですから。

これまでは、「効率の良い、知識の覚え方」みたいな内容が多かったのですが、前回、
ジミヘンのプレイで学んだように、そろそろ、そこら辺でギターを弾いている人とは
一線を画すような、『テクニク』の話も盛り込んでいきます。

『テクニク』と書くと、超絶プレイでもするのか？と感じるかもしれません。
(もちろんそれも『テクニク』のうちの 1 つですよ)

意味としてはそれも含むのですが、

『本当に音楽の知識があって、「上手い」と言われる人達はどんなことに気をつけているのか？』

そういう要素の話をしていく、ということですよ。

“速弾きがスゴイ”なんていうのは、大なり小なり、素人が見てもわかるモノですよ。

僕がこの講座で、あなたにわかるようになって欲しいのは、
同業のギタリストから見ても、「おっ、この人わかってんなー。上手いなー。」と
思われるような、そんなポイントですよ。

“上っ面”だけじゃなく、“本質”を見ることが出来るようになってほしいんですよ。

それがわかる人が、僕のお話ししている『ギタリストと言う名の音楽家』ですよ。

そしてもう、あなたはそのレベルに足を踏み入れていますし、
この講座を続けていけば絶対に良いプレイヤーになれますよ。

今学んでいる知識は、マスターしてしまえば一生使える知識ですよ。

これを学んでいくことによって、今後、生きていく間ずっと、
ギターを弾く上で困ることがほとんどなくなりますよ。

例えば僕自身の話で言えば、音楽学校に入った辺りから、バンドスコアと言うものを、ほぼ、見たことがありません。

なぜなら、

“自分で耳コピして譜面を書いてしまったほうが、曲を覚えるスピードも、プレイの内容を理解する事も、スコアを見るよりも圧倒的に早い”

からです。

これはおそらく、全てのプロが思っていることでしょう。
(聞いたことないですが笑。でも仲間とスコアの話なんてした事はありません)

一定以上、音楽的な知識を身につけて、それを扱うのに慣れてくるとわかるのですが、バンドスコア(と言うか TAB 譜)だと、楽曲が非常に把握しづらいんですね。

これは、楽曲の全体像が掴みにくいのと、細かく奏法が指定されている(TAB 譜と言う名の)図を見せられているからだと思うのですが。

今、この講座で学んでいる様なことが理解できていると、その曲を実際に聴けて、コードとキメのみの全体譜でもあれば、それだけでその曲が弾けてしまいます。

なにも、この講座を読んでくれている人全てに「そういうレベルを目指せ！」とは言いませんが笑、今現在よりは、確実にレベルアップできることをお約束します。

では今回は”The Police(ポリス)”の『Roxanne(ロクサーヌ)』という曲を題材に、トライアドの使い方のアイデアと、歯切れのいいストロークのテクニック、左手のサウンドコントロールについて学んでいきましょう。

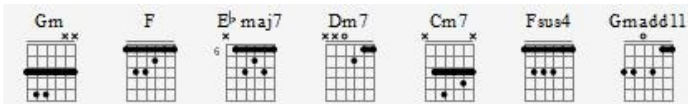
原曲はこちら。

The Police - Roxanne

<http://youtu.be/3T1c7GkzRQQ>

譜例 The Police - Roxanne 0:00～

※万が一、リンク先の動画が削除されている場合は、音源を購入するか、曲名等で検索してください。



Guitar score for the first system. Chords: Gm, Gm, F. Includes a treble clef staff with notes and a TAB staff with fret numbers. A dynamic marking of *mf* is present.

人
人
人

人
人
中

Guitar score for the second system. Chords: Eb maj7, Dm7, Cm7, Fsus4. Includes a treble clef staff with notes and a TAB staff with fret numbers.

人
葉
中

人
中
人
葉

人
中
人
葉

人
人
小
葉

Guitar score for the third system. Chords: Fsus4, Gmadd11. Includes a treble clef staff with notes and a TAB staff with fret numbers.

人
人
小
葉

人
人
小
葉

さて、新しい曲やフレーズを練習し始める時、多くの方は、いきなりタブ譜を見てギターを弾き出しますが、その前に1つやることがあります。

それは、コード進行の確認です。

「練習」というものは、上手くスムーズにその動作をこなせるようになるまで、それを繰り返す、という作業ですよ？

一応、タブ譜だけを見て練習をしても、その曲を弾けるようにはなりません。

しかし、今練習しているプレイが、いったいどういう論理に基づいて演奏されているのか？がわかっていないと、ギタープレイから学べるアイデアを、その曲を弾いている時以外に、他で使うことが出来るようになりません。

楽器演奏というのは、基本的に、コード進行に合わせて行われています。

なので、まずはコード進行を確認するのです。

そして、コード進行とギタープレイを照らし合わせて、分析してから、
その動作を繰り返す「練習(反復練習)」に入るのです。

タブ譜だけを見て、ただフレーズを丸暗記して練習し続けるのと、
ちゃんと、今、自分が、

どんなコード進行に対応している、どんなアイデアのプレイを演奏しているのか

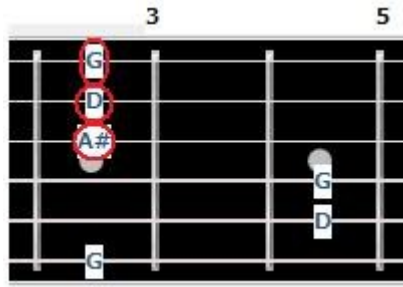
を、理解して練習するのとでは、圧倒的に後者の方が上達が早いのは、
誰の目にも明らかですよ？

ということで、そのコード進行とギタープレイの分析からいってみましょう。

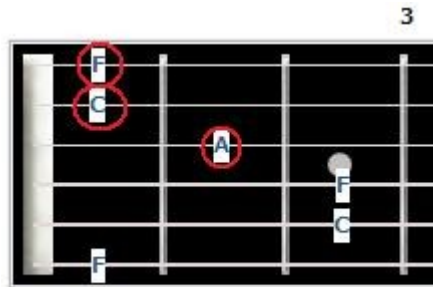
まず、1小節目から4小節目までは、わかりやすく、GmとFのコードのトライアドですね。

The image shows a musical score for guitar in 4/4 time. The top staff is a treble clef with a key signature of one flat (Bb). The first two measures are marked with a first ending bracket and contain a Gm chord (Bb3, D4, F4). The next two measures are marked with a second ending bracket and contain an F chord (Bb3, D4, F4). The TAB staff below shows the fretting for each measure: the first two measures use a 3-3-3-3 pattern, and the last two measures use a 1-1-1-1 pattern over a 2-2-2-2 fretting. The dynamic marking 'mf' is present. There are also some vertical lines and dots on the TAB staff indicating fingerings or accents.

図、Gm



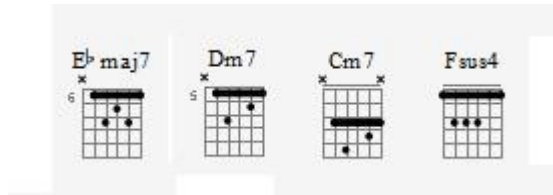
図、F



これは今まで散々やってきたことなので、すぐに理解できると思います。

次は5~7小節目。

押さえているコードは、譜面の頭に書いてあるコードフォームが元ですね。



この5~7小節目は原曲では7th(セブンス)系のコードで弾かれていますが、アイデアとして、例えば1~4小節目のように、単純なトライアッド的にこう弾いても良いわけです。

これは原曲の 7th 系のコードに比べて、一番シンプルなトライアドそのままにした形ですね。

同じコード進行でも、曲調やその時の全体のアンサンブルによって、こういった選択肢が頭に浮かべば、状況に合わせて柔軟に対応することができます。

最後の 8~9 小節目はそのまま書いてある通り、Fsus4⇒Gm11(Gm add11)の進行です。

The image displays two sections of a guitar score. The first section covers measures 1 through 4, with chord changes at the beginning of each measure: Eb maj7, Dm7, Cm7, and Fsus4. The notation includes a treble clef, a key signature of one flat (Bb), and a common time signature. Below the staff is a TAB line with fret numbers for each string. Underneath the TAB, vertical labels indicate which strings are to be played: '人' (finger), '中' (middle), '人' (finger), '人' (finger), '中' (middle), '人' (finger), '人' (finger), '人' (finger), '小' (small), '人' (finger), '人' (finger), '小' (small).

The second section covers measures 8 and 9, with chords Fsus4 and Gmadd11. The notation includes a treble clef, a key signature of one flat (Bb), and a common time signature. Below the staff is a TAB line with fret numbers. Underneath the TAB, vertical labels indicate which strings are to be played: '人' (finger), '人' (finger), '小' (small), '人' (finger), '人' (finger), '小' (small).

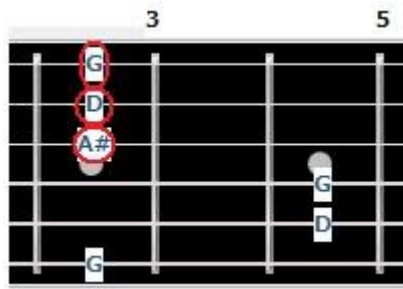
ここは理論的にアレンジを解説できるんですが、まだその下地となる知識は講座でやっていないので、解説は後々。

現段階で、この譜例から学べることはいくつかありますが、その内の1つに、

「コード進行で指定してあるコードのフォームを、全て押さえて鳴らさなくても良い」ということ

が挙げられます。

例えば、Gm がありますね。



普通に Gm のコードを弾くとなったら、6 弦から 1 弦までを人差し指で押さえた、バレーコードを思い浮かべる人が多いと思います。

しかしこの曲では、3 弦～1 弦の 3 本しか鳴らしていません。

同じ Gm でも、6 弦から 1 弦まで全ての弦をセーハして鳴らすのと、3 弦～1 弦の 3 本だけを鳴らすのでは、ニュアンスが大きく変わります。

この Roxanne は、“軽快でタイトな(引き締った)”リズムフィールの曲ですよ？

それなのに、バレーコードをそのまま押さえて、6 本の弦全てをジャンジャンやってしまっただけでは、リズムフィールが重くなってしまいます。

アンサンブル的にも、ギターの外にベースがいて、ベースラインを鳴らしてくれていますし。

The Police は基本的にギター、ベース、ドラムのトリオですが、バンドの編成によっては他にキーボードがいたりするわけです。

そういった、ギター以外にも、ギターと比較的近い帯域で音を出している楽器がいる時は、ギタリストは、わざわざ律儀にコードフォームを書いてある通りに押さえて、全弦の音を弾く必要はないのです。

特に、ベースシストがいる時に、ギターがコードのベース音を鳴らすかどうか？という判断を迫られる時はかなり多いです。(バンドの編成が大きい時などは特に)

この辺りは、正解と言うものは無いので、その場その場の判断で色々試してみて、じっくりくるものを選びます。

今回の Roxanne で取り上げたフレーズでは、主に 4~1 弦を使っていますね。

ギターで言うと、5、6 弦のような、太い弦になればなるほど、出てくる音は重くなるわけです。

そういったことを考慮しての、4~1 弦をメインに使ったギタープレイです。
(元ネタは、レゲエスタイルのギターカッティングでしょう。)

これらのことをまとめると、

**“ギターはバンド編成や曲調などによって、
コードの構成音の一部を鳴らすだけでも良い場合がある”**
(むしろそうしたほうが良いときもあります)

と、ということが挙げられますね。

逆に、アコギー一本で弾き語り、とかだったら、バレーコードでフォーム全てを押さえて、ジャツ、ジャツ、ジャツ、ジャツとやっても良いです。

弾き語りならばベースも何もいませんからね。

さて“新しい曲を学ぶ時の、ギタープレイの分析”を試しにやってみましたが、いきなりここまで分析するのは難しいと思います。

ですが、こういったことも、やっていけば段々と出来るようになります。

この「分析力」みたいな力を担保するのは、主にこの講座で学んでいるような知識と、さらに一番大切なのが、「楽曲全体やプレイをしっかりと聴く」と言う部分です。

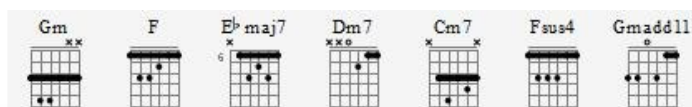
具体的に気をつけるポイントは様々ですが、ギターに関して言えば、まず最初は、「そのフレーズはどんな風に聴こえるのか？」を明確にすることですね。
(そして「それはどうやったら出来るのか？」に続く)

そういった部分も、この講座で引き続きやっていきますので、上手い人は
どういうところを聴いているのかを確認しながら、一步一步上達していきましょう。

さて、実は今回はまだ終わりません。

次は Roxanne でのストローク(カッティング)の、
テクニク的な部分について解説していきます。

もう一度、譜面をみて、コードを押さえる指使いを確認してみましょう。



First system of musical notation for Roxanne. It shows a 4/4 time signature and a melody line with chords Gm and F. The TAB below shows fingerings: Gm (3 3 3 3), F (1 1 1 1), and Gm (3 3 3 3). Fingerings for the bass line are indicated as 2 2 2 2.

人
人
人

人
人
中

Second system of musical notation for Roxanne. It shows chords Eb maj7, Dm7, Cm7, and Fsus4. The TAB below shows fingerings: Eb maj7 (6 8 7 8 7), Dm7 (5 6 5 6 5 7), Cm7 (3 4 3 4 3 5), and Fsus4 (1 1 1 1).

人
葉
中

人
中
葉

人
中
葉

人
人
小
葉

Third system of musical notation for Roxanne. It shows chords Fsus4 and Gmadd11. The TAB below shows fingerings: Fsus4 (1 1 3 3) and Gmadd11 (3 3 5 5).

人
人
小
葉

人
人
小
葉

押さえてみるとわかると思いますが、譜面に表しているパートは全て、
基本的にはネックを握りこむ、ロックフォーム(シェイクハンドグリップ)になっています。
(※手の大きさの関係や、他のフォームでもミュートが可能なら、
必ずしもシェイクハンドグリップにこだわる必要はありません。)

この時、鳴らさない弦は、6弦が主に親指、5弦～4弦が主に人差し指で、
届けば他の指(親指、もしくはその他の余っている指)も使ってミュートすることになりますね。

そして全ての音符にスタッカートがついています。(最後以外)

原曲を聴けばわかりますが、このフレーズは「キャツ、キャツ、キャツ、キャツ、」という、
コードカッティングの繰り返しです。

**ここが重要なのですが、この「キャツ、キャツ、キャツ、キャツ、」と、
コード音を短く切る行為は、基本的には全て左手で行います。**

**コードを鳴らしたら、弦を押さえている左手を緩めて、
フレットから弦を離す行為だけで音を短く切ります。**

右手の手刀部で弦に触って音を切ってはダメです。(この曲では)

右手は常に振り続けてください。

左手だけでコード音を切るのと、右手でコード音を切るのとでは、
音が途切れるときのニュアンスが変わります。
(試しに両方でやってみてください)

この曲(譜面のパート)では、左手のみで音を上手く切る事を意識しましょう。
(youtube でライブ映像などを検索して、アンディ・サマーズの手の動きを見てみましょう。
参考ライブ映像→<https://youtu.be/6lQlajFq3cE>)

次に、右手のストロークなんですけど、これも鋭く振りつづけ、かつ、
出来るだけ鳴らすべき弦のみを狙ってピッキング(ストローク)します。

要するに、Gm や F の時の 1～3 弦だけを押さえているときは、
極力 1～3 弦のみにピックを当てる様に手を振ります。
(1～4 弦を押さえるフォームなら 1～4 弦のみ)

しかし右手は、最低でも全弦を鳴らせるくらいの幅で、大きく(と言うよりは鋭く)振るのです。
(この辺りもライブ映像を参考にしてください)

これは慣れていないと難しいかもしれません。

でもそうしないと、この曲(ギタープレイ)のニュアンスは出ないのです。

譜面を見てもらえればわかると思いますが、

こうではなく、

Gm

4/4

1 2

mf

T
A
B

こうです。

Gm

4/4

1 2

mf

T
A
B

ここ、ニュアンスを出すのに、非常に重要なポイントなので注意してくださいね。

弾き比べてみればわかりますので。

高音弦のみを狙って弾くと、「キャツ、キャツ、キャツ、キャツ、」という軽快なニュアンスになりますが、そこに低音弦のブラッシング音が入ってしまうと、「ズジャツ、ズジャツ、ズジャツ、ズジャツ、」と言う感じで、ギターサウンドが少し重たくなります。

そうしてしまうと、曲のリズムフィールが死にます。

もちろん、100%鳴らす弦だけをストロークしなくてはいけないと言うわけではなく、多少はミュートしている低音弦側の弦に当たっても良いのですが、極力、押さえている弦だけを狙います。

こういったストロークのコントロールも出来るようにしておきましょう。

最初は難しいかもしれませんが、慣れたら自然にできるようになりますので。

さて、今回話したようなところを、聴き取ったり、考えたりできるかどうかは、『上手い人』とそうでない人を分けるポイントになってきます。

「細かいなあ」と思うかも知れませんが、その細かいところが重要なのです。笑

その『細かいところ』を、いつまでたっても聴き取れないから、気を付けないから、本当の意味で『上手く』なれない、ということですね。

上手いプレイヤーになるためにも、この様な細部を意識して、音楽を聴いたり、練習したりしていきましょう。

そして、そういった部分が聴き取れれば聴き取れるほど、日常で音楽を聴くことが自体が楽しくなります。

レベルの高い人のやっている、Coolな事がわかるようになりますからね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼